



外来種勉強会 in 東小学校



2019年5月14日(火) 天気 曇り／雨 東小学校

長久手市内でも特に多様な生き物が生息する校区、東小学校。昨年に引き続き、4年生約50人が自然環境保全のスペシャリスト、長谷川明子先生(ピオトップネットワーク中部会長)から外来種について学びました。

1 「外来種」ってなあに？

「外来種という言葉を知っている人！」との問いかけに、なんと教室の7割が挙手。外来種とは、もともとその地域にいなかったのに、人間によって他の地域から入ってきた生物のことです。子どもたちからは、ブラックバス、アカミミガメ、雷魚など、たくさんの動物の名前が挙がりました。実は、外来種は動物だけじゃなくて植物も多く、学校の周りにもあります、と長谷川先生。今日取り上げる「オオキンケイギク」が紹介されました。



先生の呼びかけに積極的に応えます!!



紙コップピラミッドで生態系を感じよう！

地球上の生き物は5階建てピラミッドに例えられます。



1つの場所には1種しか生きられない

…紙コップの数には限りがある



みんなつながっている=食物連鎖

…紙コップが1つなくなると全体が壊れてしまう



ピラミッド実験中

2 「外来種」はなぜいけないの？

～生態系は“イス取りゲーム”

「1つの場所に1種しか生きられない。」これが地球のおきてです。在来種よりも繁殖力が強い外来種がやってくると、“イス取りゲーム”のように、在来種の居場所がなくなってしまいます。そこにしかない種類の生き物(=固有種)が絶滅してしまう危険があるのです。



4 愛知県は全国No.1！植物の多様性

日本のなかでも、ここ愛知県は、最も植物の種類が多い県です。先生からの新情報に、子どもたちから「えー!!」と驚きの声があがりました。

3 日本は“固有種の宝庫”



国土面積の狭い日本ですが、高等植物は5,565種あり、その内固有種割合は36%。同様の国土面積であるイギリス(1,623種)やドイツ(2,632種)よりも非常に高くなっています。

また、日本は全体が「生物多様性ホットスポット」になっています。「生物多様性ホットスポット」とは、その地域にしかない固有植物種が1,500種以上あるのに、原生の自然の70%以上が失われている地域のことです。

“地球防衛隊” 隊員への道はつづきます
裏面へ



5 「オオキンケイギク」を駆除せよ！

雨が降り始めるまでの短時間でしたが、校庭のフェンス沿いと駐車場の2カ所で、駆除活動を行いました。目視で確認するがぎり、発生量は今年の半分以下。昨年の駆除活動が確実に結果につながっていることを確認しました。



キバナコスモスとよく似ています



花が咲いていないものも。葉っぱの形で見分けます。



6 みんなで観察してみよう

グループごとに、駆除したオオキンケイギクを間近で観察しました。「(きれいな花で)外来種じゃないみたい」など、いろいろな意見や気づきがありました。



グループで話し合いながら、気づいたことを書き出します。

7 楽しく学ぼう！オオキンケイギク絵描き歌

先生が考えたオオキンケイギクの絵描き歌を「うさぎとかめ」のメロディに合わせて、みんなで歌いながら楽しく描きました。花びらや葉っぱの特徴を学びました。



歌いながら描きます♪

おわりに

自分の近くにも外来種をはじめとする環境問題があることや、もしお家で毛虫を殺したらそれが地球を壊すことにつながってしまうかも…! ということなど、授業をきっかけに子どもたちに自然環境保護の気持ちが芽生えたのを直に感じました。ご家庭での話し合いを通じて、自然保護の考えが広まることを期待しています。長久手市環境課では、これからも、多種多様な生き物と私たち人間が生きていくことがステキだなと感じる機会をお届けします。

